とうきょう すくわくプログラム活動報告書(八王子市)

施設名	八王子市立中野保育園
担当者	５歳児クラス

１．活動のテーマ

<テーマ>

自然（大豆について知る）

<テーマの設定理由>

毎年の味噌作りを通して味噌に興味を持ち、原料の大豆のことを調べたり、育てたりすることで、どんな食べ物になっていくのか、子どもたちで話し合った。

２．活動スケジュール

4 月⇒味噌料理を通して味噌に興味を持つ（味噌が何で出来ているのか子どもたちと考え、大豆のことを調べてる）
5 月⇒大豆を植えて育てる（育てる時にはどういったお世話があるか子どもたちと考える）
8 月⇒枝豆が育ったら食べてみる。
10 月⇒大豆を収穫する。
1 月⇒豆腐作り　おからクッキー作り
2 月⇒味噌作り
＊春から調べ、栽培し、収穫した大豆の成長を振り返る。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

大豆・水耕栽培用のトレー・苗・土・鍋・ミキサー・大豆、味噌作り・豆腐作り・おからクッキー作りに必要な材料・図鑑。大豆の絵本

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

・水耕栽培で豆から発芽していく様子を日々観察する。水の入れ替えだったり、管理が難しくカビたりしてしまう。それでも芽が出たり、もやしが出てきたりすることで、関心が高まっていく。
・ある程度芽が出たところで畑に植える。日々の観察・水やりを行う。
・枝豆の収穫・実食
・実が茶色く乾燥し、大豆になっていく様子を観察
・大豆の収穫
＜豆腐作り＞
・4 グループに分かれて豆腐作りの工程を見ながら学ぶ。豆乳絞りを体験する。
豆乳・湯葉・おから・出来立ての豆腐・一日寝かせた豆腐を実食
・おからでクッキー作りを行いおやつで食べる。甘みを付けたことで、美味しく食べた。
＜味噌作り＞
・大豆を煮る肯定の見学
・4 グループに分かれ煮豆を手や足を使い潰していく。
・麹を混ぜ団子を作り、空気を入れないよう一づつ容器に詰めていき密閉する。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

・水耕・畑での栽培では、小さな芽が出たり蔓が伸びが大きくなっていく様子に、子どもたち同士で喜びの声を上げ、保育者に知らせに来ていた。
・「早く大きな~れ！」「おいしくな～れ！」と声を掛けている子もいた。
・枝豆は見慣れているが、乾燥して大豆になっていく様子には驚き、不思議な表情の子もいた。大豆を殻から取り出す作業では、飛び出す様子が楽しく集中していた。
・豆腐作りでは、硬い大豆が柔らかくなり、形状が変化していく工程に驚いたり、感心したり、興奮したりしていた。
・豆乳絞り体験では、「牛の乳しぼりみたい」と興奮気味に、恐る恐るの子もいれば力を入れてしまう子もいた。「やさしくそっとだよ」と子どもたち同士で声を掛け合っていた。
・実食では、自分たちが知っている豆腐の形や柔らかさの違いに不思議さを感じながらも、味わって食べていた。豆腐本来の味に顔をしかめる子・お代わりを求める子など様々であったが、食べてみようと意欲を見せる子が多かった。

・味噌作りでは、大豆を煮る工程で「大豆がお湯の中で踊ってるね」などの声があった。煮豆の香りにいいにおいと感じる子や顔をしかめる子など様々であったが、味噌作りへの興味と期待が高まっていた。
・煮豆を潰す工程では、「足でもいいの？」と手や足で潰すことに恐る恐るであり、力強かったり、力加減を考えたりと様々。だが、どのグループも協力しながら、楽しみながら取り組めていた。保育者の番になると懸命に応援してくれた。
・容器に詰める作業は、保育者の間に子ども達を何人か入れて円になって行った。熱さを感じながら自分の手でだんごにして入れていくことに、驚きと不思議さを感じた様子であった。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・大豆を育てるところから始まり、長い期間の取り組みとなったが、その都度興味関心を持って取り組める姿、知らないことを知っていこうとする意欲と吸収力、素直に見聞きする姿に年長としての成長を感じた。

・大人は普段見慣れていることでも、子どもたちにとっては新鮮でありワクワクであり、知っていくことを楽しめていけることに、改めて子どもたちのすごさを感じ、楽しめる毎日を過ごしたいと思った。

・味噌作りはこれからだが、子どもたちがどんな気づきをしながら取り組んでいけるのか、楽しみである。

・いつも食べている味噌がこんなにも沢山の工程があり、人の手で時間をかけて作られていることを知ることで、出来上がりがとても楽しみになったようだ。まだかな、まだまな～の子ども達のワクワクな表情が印象的でった。実際に食材に触れて、五感で感じ疑問や感想を言葉にしながら、自分の中に取り入れていける・作ることを楽しんでいける子ども達の素直な気持ちを大切にしたいと感じた。